

そうせい

1 1

2025

医療法人社団 綾和会 掛川東病院 桔梗の丘 広報誌

No.31



contents

特集

- **FOCUS** 学びを力に、より良いケアへ
安心と信頼の医療を、これからも
- 「東病院のひとこま」で2か月間の出来事を振り返り

FOCUS



人や取り組みにスポットライトを

学びを力に、より良いケアへ

「この病院で良かった」と感じていただける看護を目指して



当院では、看護の質向上と人材育成の充実を目指し、職員が主体的に学び続けられる環境づくりを推進しています。その一環として、外部研修への参加を金銭的に支援し、学びの機会を積極的に後押ししています。今回紹介するのは、「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」を修了した3名の看護師です。それぞれが管理や人材育成の基礎を体系的に学び、日々のケアやチー



ム運営にその学びを生かしています。研修では、人材・資源・質の管理など、看護の“組織運営”に関わる幅広い分野を学びます。ある看護師は「対話を通して課題を共有する大切さを学んだ」と話します。主観的な意見ではなく、データに基づいた客観的な視点で話し合うことで、チーム全体で共通の課題意識を持ち、前向きな議論ができるようになったといいます。別の看護師は「これ

まで虫の目で病棟を見ていたが、研修を通して鳥の目で全体を捉える意識が芽生えた」と語ります。患者様へのケアに集中するだけでなく、スタッフ一人ひとりの特性を意識しながら、病棟全体の力を引き出すことを心がけているそうです。また、唯一現職の管理者として参加した看護師は、「課題であるマネジメントや育成について、論理的思考からアプローチできることを理解できた」と話し、学びを今後の人材育成やチームマネジメントに生かしていく決意を示しています。3人それぞれが、立場や経験の違いを越えて学びを自らの成長につなげ、現場で実践しています。当院は、今後も職員一人ひとりの学びと挑戦を支援し、誰もが「この病院で働けて良かった」と感じられる職場づくり、そして「この病院で良かった」と思ってもらえる看護の提供を目指してまいります。

安心と信頼の医療を、これからも

病院機能評価の認定を受けて見えた、私たちの成長と課題



当院は、病院機能評価の認定を受けた病院です。病院機能評価とは、病院が安全で質の高い医療を提供しているかを第三者の立場から客観的に評価する制度で、日本医療機能評価機構が実施しています。患者様が安心してサービスを受けられる病院づくりや、サービスの質向上を目的としています。評価の項目として、サービスの質はもちろん、掲示物やマナー、施設の状態など細部にわたっており、包括的に患者様にどれほど

の満足を与えることができるかが重要となっております。また、この評価制度は、私たち職員にとってもメリットがあります。それはルールの明確化です。明確なルールがないと、どんな手順と判断基準で物事を進めていいか迷ってしまい、業務効率が悪くなることがありました。しかし、この病院機能評価の審査にあたって改善点を明確にし、ルールを明確にすることで、業務効率の改善につなげることができました。その結果として、職員が患者様のために充てられる時間が増え、より良いサービス提供ができるようになってきています。今回の評価認定を受けるために、多くの職員の協力がありました。普段は関わることのない職員同士も協力し合い、大きな目標に向かって一丸となって進んでいくことで、病院としてさらに一体感が増したように感じています。特に、当院が進める地域活動は大きな評価を受けました。この評価によって、地域活動の重要性が明確となりました。一方で、指摘された項目もあり、そこは真摯に受け止め、すでに改善に向けて取り組みを進めています。今後も当院の強みを発揮しながら、地域の皆様が安心して暮らしていける病院づくりを、未来を見据えて行っていきます。

東病院の ひとこま



希望の丘マルシェ vol.3

第3回を迎えた「希望の丘マルシェ」では、多くの方々のご支援により約2,200名が来場。笑顔あふれる交流の中で、テーマである“つながり”を形にすることができました。



施設の催し

敬老の日に合わせて、ボランティアさんの演奏や、近隣保育園の子どもたちが来院！通所リハビリでは、職員の提案によりドーナツバイキングを実施！初めて食べる方は美味しさに感動！ドーナツを通して、多くの会話も生まれていました。



ケアマネ勉強会

地域のケアマネジャーを対象に、当院リハビリテーション部長が「脳卒中リハビリテーションの基本的な考え方」について講話しました。地域課題を共有し意見交換を行うなど、支える人々の交流が深まりました。



マネジメント研修

次世代のリーダーを対象に、当院では定期的に研修を実施しています。「地域に開かれた病院となるために、どのように行動すべきか」をテーマに、参加者がワークショップを通じて意見を交わし、具体的な課題にも挑戦しました。



11月21日(金) 11時半～14時



k.d.cafe

厳選したバナナとこだわり 袋井市にあるしっとり系
ミルクのみでお作りする サクふわスコーン専門店。
バナナジュース。



スコーンONE

12月26日(金) 11時半～14時



「どっだん」は12月で、
ついに3周年を迎えます!

これまで支えてくださった皆様への感謝を含めて、今回はいつもより少し特別に。出店者も増え、にぎやかな1日になる予定です。おしゃべりを楽しみながら、ほっとひとときしませんか?どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

開催
場所

掛川東病院正面玄関前
地域の方もお越しください!



どっだん とは?

「仕事に楽しみを」毎月、職員や近隣事業所向けに開催されているイベント。
美味しい飲み物や食べ物を囲み、気軽に話することができるきっかけ作りを目的としています。



インフルは"空気と手"から来る!

今日からできる

3つの予防習慣

冬が近づくと、街中でくしゃみや咳の音が増えてきます。毎年やってくるインフルエンザ。私たちはつい「寒いから」「人混みだから」と言いがちですが、実はインフルエンザが広がる理由は、もっと身近なところにあります。それが——空気と手です。

1

空気を動かす＝ウイルスを減らす

インフルエンザウイルスは、咳やくしゃみで出る小さな粒に乗って空気中を漂います。換気をすると空気が入れ替わり、ウイルスの量が減ります。1時間に1回、1分間の換気で効果があります。湿度は40～60%を保つとウイルスが長生きできず、のども守られます。乾燥を防ぐことが感染予防につながります。

2

手は“ウイルスのエレベーター”

手は、ドアノブやスマートフォンなどを通してウイルスを運ぶ役割をしてくれます。その手で鼻や口、目をさわると感染します。食事の前や外から帰った時、顔をさわる前に手洗いや消毒をしましょう。玄関やリビングに消毒液を置くと、家族みんなが自然に予防を意識できます。

3

マスクは“空気の壁”であり“思いやりの印”

マスクは自分を守るだけでなく、他の人にうつさないためにも大切です。鼻とほほにすき間がないようにしっかり着けましょう。湿ってきたら新しいものに替えると効果が続きます。咳やくしゃみがあるときは特にマスクが重要で、思いやりの行動が感染拡大を防ぎます。



お問い合わせはお気軽にどうぞ!

地域を支える 仲間募集

掛川東病院では医療介護を通じて
地域の皆様が安心して暮らせる環境を
一緒に作る仲間を募集しています!



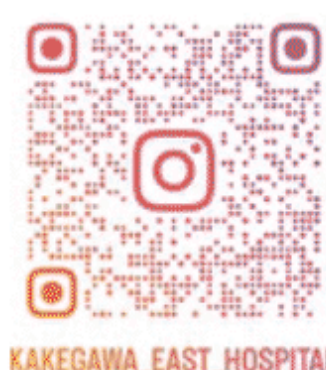
まずは見学でもOK

お気軽にお問い合わせください

☎ 0537-23-7111 (市野)

Instagram

当院の取り組みやイベント
を随時更新中。
医療現場の日常をお届けし
ています。



KAKEGAWA_EAST_HOSPITAL

回復期リハビリテーション病棟 診療実績 (令和7年9月)

新規入院患者に対する重症度割合		57.9%
重症患者で FIM16点以上改善している割合		64.8%
在宅復帰率		84.2%
アウトカム評価（実績指数）		51.9
患者1人あたりの提供単位		6.7
患者構成	脳血管疾患	50%
	運動器	35.5%
	廃用症候群	14.5%



医療法人社団 綾和会

掛川東病院

〒436-0030
静岡県掛川市杉谷南1丁目1-1

☎ 0537-23-7111

FAX 0537-23-7116

